

第50回



釜ヶ崎 越冬闘争

2019/12/28~2020/1/6

仲間内の団結で一人の餓死・凍死者もだすな!

今こそ、安心して働き生活できる釜ヶ崎をつくろう!

万博が終わった1970年の年末。仕事が無くなり行政機関も一斉に休みに入ると、釜ヶ崎では多くの日雇い労働者がドヤ(簡易宿泊所)から路上に投げ出される事態が生じました。この状況に有志たちが「釜ヶ崎越冬対策実行委員会」を結成し炊き出しや集団野営に取り組んだことが越冬闘争の始まりでした。1975年には公園のテント村が大阪市・機動隊による取り壊し(行政代執行)をうけました。1978年には地区内の三つの公園が全面閉鎖されました。しかし越冬闘争は49年間、その時代の課題と取り組みながら一度も途切れることなく続けられてきました。今年の越冬闘争は閉鎖されたあいりん総合センターと移転する市営第二住宅の跡地にどのような機能・役割を持つ施設を作るのか、という議論を中での取り組みとなります。

第 50 回 釜ヶ崎越冬闘争スローガン

☆野宿をさせるな、仕事をさせろ！

- ・働いて飯を食わせろ！ 国の責任で仕組みを創れ！
- ・大阪府は特掃（センター清掃・ガードマン）を減らすな！
- ・賃金を上げろ！

☆公用地・センター跡地の売渡しは許さんぞ！

- ・新しいセンターに労働者・地域のための施設を創れ！
- ・センターの『居場所機能の移転』をちゃんとやれ！
- ・誰もが排除されることのない街を創ろう！
- ・住宅手当の単独給付をしろ！
- ・大阪市は『街づくりビジョン』を出せ！

☆人権を尊重できる社会を！

- ・一部の者のための「お友だち政治」をやめろ！
- ・国家のための社会ではなく、ひとりひとりが大事にされる社会を！
- ・生活保護法改悪「切り下げ、しめつけ、切り捨て」を許さないぞ！
- ・防衛費の拡大、社会保障費削減、戦争と人権無視の改憲阻止！

☆原発や基地の無い、戦争などしない、安心して生活できる社会を！

- ・全ての原発の即時廃炉を！ 労働者、住民を被曝させるな！
- ・沖縄の民意を蹂躪する辺野古新基地建設・土砂投入反対！
- ・自衛隊の軍備拡大・基地強化、南西諸島の対アジア前線基地化反対！
- ・政府は隣国への敵視政策をやめ、平和安定を支持しろ！
- ・日米安保・地位協定の見直しを！

☆差別扇動、排外主義、歴史改ざんと闘うぞ！

- ・排外主義者を使った労働運動、市民運動つぶしを許さんぞ！
- ・差別排外主義を煽動する民衆の分断支配を許さないぞ！
- ・権力犯罪 - えん罪を許さないぞ！
- ・忖度する司法制度を変えよう！

なかま内の団結で一人の餓死・凍死者も出さな！

野宿の仲間への襲撃を許さないぞ！

安心して働き生活できる釜ヶ崎をつくろう！

第 50 回越冬闘争を闘うぞ！

全世界の労働者・人民・被抑圧民族と連帯して闘うぞ！

第 50 回釜ヶ崎越冬闘争 基調

いよいよ今年も本格的な冬がやってきました。建て替えのためのセンター閉鎖や猛暑、台風など、働く者、野宿を強いられる者にとって厳しい一年でした。

大阪では道頓堀や黒門市場、USJなど外国人旅行者があふれんばかりに詰め掛けており、新今宮駅や新世界も大量の旅行者が行き来し、ホテルや民泊を求めて地区内奥深くまでやってきています。

さらに 20 年の東京オリンピック、25 年の大阪万博を当て込みホテルなどの建設のみならず道路工事に至るまでいたるところで建設ラッシュが始まっています。

こうした観光客の増加は一部の地域経済を活性化させ、大量のドラッグストアが新規開店し、スーパー玉出やドン・キホーテといった旧来の安売り店の商品価格も押し上げて、地域労働者、生活者の家計を圧迫するようになりました。地域の簡易宿泊所(ドヤ)でさえ、土日祝祭日は 200 円割り増しなどというところが出てきています。

こうした現場の動きは再開発と呼ぼうがジェントリフィケーションと呼ぼうが確実に街の変化と地域の労働者の生活の変化を推し進めています。

日本社会の動き

私たちをとり囲む日本の社会状況は、安倍内閣がその圧倒的な議席数を背景に次々に大資本のための政策を打ち出し、国会審議もおごなりに強引な議会運営で議案をとおして行っています。人権を無視し、企業のために大量の外国人労働者を労働力(もの)として輸入する奴隷労働法ともいえる法案を通したり、市民生活の根幹を支える水道事業を民間企業に売り渡しています。外国人労働者に対する人権無視、奴隷的扱いは、国内の労働者に対する扱いとしても、差別をテコとした労働法の無視、条件の切り下げとして労働市場に反映されるであろうことは明らかです。水道民営化も世界の例を見れば値上げや採算の取れない地域への供給停止など、市民生活に大きな影響を与えます。

司法の場では裁判官の任命権を盾に都合の良い裁判官を集め、最高裁が再審決定を覆すなど国家の威信を保つためにえん罪・再審を認めなかったり、森友・加計学園問題、「桜を観る会」のような政治の腐敗に目をつむらせ、福一事故の責任者・東電幹部を免罪するなど三権分立を否定する「政権に付度する」司法体制を作り上げています。

ますます大企業、外国資本、お友だち、支持者のための優遇政策を突っ走っています。

また、米国、米軍追隨の日本政府は、沖縄民衆の選挙による民意を無視して辺野古新基

地を強行し土砂投入・工事強行を続けるとともに、「慰安婦」問題・徴用工問題などで排外主義を煽りながら中・韓・朝鮮を敵視し、南西諸島への自衛隊基地建設・配備によって米国と一体となりアジア臨戦態勢を整えようとしています。

そのため国民統合・挙国一致体制を創ろうと「道徳」教育の導入、憲法からの「人権」項目の削除と「国家のための個人」づくりと自衛隊の軍隊化の明記をめざし、改憲をもくろみ、天皇代替わりに莫大な国家予算を使いながら天皇制を強化しようとしています。

こうした流れの中で、国民の年金を浪費し企業の株価を操作してきた安倍政権は、社会保障費をますます削り、生活保護費を切り下げ、莫大な兵器購入予算に変え、さらに消費税を10%に上げ困窮者を絞めつけています。

釜ヶ崎をめぐる問題

いよいよ4月にセンターが閉鎖され、建て替え工事が始まろうとしています。

センターの建て替え問題は、自らの営利のため事業拠点を創るため跡地を私たちから奪おうとする商業資本と労働施設を守ろうとする私たち労働者とのせめぎ合いであり、地域の発展を目指す人たちとの協働の場でもあります。

センター建て替えにともなう街づくりはこの間大阪の行政当局が悪徳政治家と御用役人、御用学者が進めてきている「民営化」の名の下に市民の財産、労働者の財産を資本に売り飛ばそうとする目論見との闘いです。

彼らの好きなように街づくりが進められれば、野宿をせざるを得ないなかまたは排除され、生活保護のなかまや建設労働で生計を立てている仲間も散り散りに追い立てられ、福祉施設や飯場へ囲い込みを強いられるようになるかと思われます。

私たちはこの間の闘いで、労働施設(あいりんセンター)の商業資本への売り渡しは阻止したものの建て替えが差し迫る中で新センターの中身やセンター利用者の居場所機能の移転についてはまだまだ見えてきてはいません。それは第一、第二市営住宅、医療センターを萩小跡地に移転する大阪市がセンター跡地に地域住人や労働者のための新しい施設を創る=予算を付けることを渋っているからにほかなりません！西成特区構想などと言いながら大阪市は何も地域の将来に展望を持っていないのです。

大阪府・市はゼネコンや大資本を儲けさせようとする大阪の悪徳政治家たちの企みによ

って '25 大阪万博なるものを誘致します。'70 万博のためにつくった労働力供給基地「釜ヶ崎」の問題解決もできないうちにまた万博を行い、再度同じ轍(集めた労働者の使い捨て)を踏むなど考えられない暴挙です。

まず、再び「建て替えが伸びれば政治家の『政治決断』によって計画がつぶされる」などという行政の脅しに屈せず、①「公用地は絶対に資本に売り渡すな！」と声を大にすること。

そして、②「センター建て替え、街づくりの過程で行き場を失う失業労働者の問題を解決する=センターの居場所機能の移転問題を解決する」こと。そして「これらの問題(地域の将来)をどう考えているのか大阪市に明らかにさせること」です。

これが今越冬闘争の中では大きな課題です。

そして、私たちは「釜ヶ崎へ行けば何とかなる」という思いに込められてきたこの街の良さ、多くの人たちの思いを守ることによって、今この街に暮らすなかまとともに、これからもたどり着くであろうなかまたちがこの街で再起ができる、あるいはこの街なら排除されることも無く安心して暮らせると思えるような街となってくれればと思います。

この間の越冬闘争や夏まつりでのなかまたちへのアンケートではいろんな意見が出てきました。

建設日雇だけで無い職業紹介。高齢者でも働ける仕事の紹介。若者への仕事(建設労働以外)の紹介。職業訓練の充実。女性への職業紹介。託児所、保育所の設置。縦割り行政に縛られない何でも相談できる相談施設。住人たちが集える場所を持った施設。災害避難場所として使える施設。などなど、ほんの一部の抜粋です。

今、香港やフランスでは多くの労働者・市民が政権批判の声を上げています。私たちもかつて多くのなかまが団結して声を上げることによって寝場所や仕事=シェルターや特掃を勝ち取ってきました。これはまだまだ満足できるようなものではありません。

今年の越冬闘争は目の前でなかまたちが餓死・凍死をするのを防ぐとともにこの街がすべての個人にとってやさしく住みやすい街となるように人権と平和を求めてそれに反するような行政施策、国の政治を見据えながらなかまたちの団結を創り出し、声を上げていく越冬闘争になればと願っています。

越冬闘争の活動内容と日程の紹介



☆布団敷きと警備(集団野営)☆

12/28~1/6 朝5時まで 社会医療センター軒下

野宿をせざるを得ない人たちの大きな心配の一つに、通行人からの嫌がらせや、若者からの襲撃の恐怖があります。遊び半分で道頓堀川に投げ込まれて溺死させられた藤本さん。天王寺で殺害された小林さん。そして梅田での富松さん殺害など被害・犠牲は後を絶ちません。今年も新シェルター、三徳ケアセンター等地域内を中心としての越冬対策となりますが、社会医療センターの軒下での集団野営は継続します。夜7時半頃から布団を敷き始め、翌朝5時まで夜を徹して番をします。一部のメンバーはそのままセンター情宣「日刊越冬」の配布に参加します。

正月を迎えると支援者の数が落ち込み人員不足になりますが、「一人の餓死・凍死者も出さない」越冬闘争の基本となる活動なのでご協力をお願いします。



☆炊き出し☆

12/30~1/5 夜6時配食 場所三角公園

日替わりメニューで毎日温かい食事を提供します。2日の朝にはもちつき大会も行います。



☆人民パトロール☆

12/30~1/3 夜8時から夜10時

労働者、地域住民、市民、宗教者、学生など越冬闘争に参加する様々な人たちが集まって行なうパトロールです。日ごとに地区内、難波、梅田、天王寺、日本橋を回ります。地区内外で野宿を強いられている仲間、釜ヶ崎で越冬闘争が行なわれていることを呼びかけます。「炊き出し」「集団野営」「医療・労働相談活動」「越冬まつり」などの情報とともに、カイロなどの支援物資を渡していきます。また街を歩く人達に越冬闘争への理解と協力を求める活動でもあります。その日の越冬まつり終了時に参加者を募り三角公園から出発します。

☆臨時宿泊所 受付相談と監視行動☆

12月29日(日)午前中 大阪市保健福祉センター分館(旧・市更相)前

シェルターが閉鎖されている12/29~1/5までの期間、新シェルター、三徳ケアセンターに臨時宿泊所が設置されます。保健福祉センター分館が受付窓口になりますが、ここで不当な申し込み拒否等がないように見守り、労働者・高齢者の相談、アンケートも行います。

☆医療パトロール☆

12/28日～1/5 夜9時45分～夜11時30分 医療セン

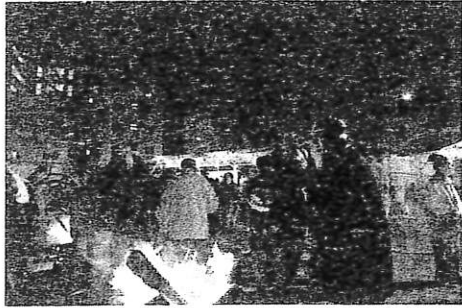
ター前集合 地区内外で野宿を強いられている仲間に支援物資を提供しながら健康状態を確認する活動を行います。緊急の場合には医療センター前の集団野営と連携を取りながら医療機関への引き継ぎも行います。



☆資材管理☆

12月～1月初旬

毛布や布団の準備、三角公園で使う焚き火や炊き出し用の薪などを調達・管理します。12月15日(日)、22日(日)には三角公園の舞



台や炊き出し小屋の設営を行います。越冬終了後の舞台や小屋の解体まで続く、越冬闘争を下支えするとても重要な活動です。

☆越冬まつり☆

12月30日～1月3日 三角公園



舞台では演歌、フォーク、ロック、ブルース、ボサノバ、ラップ、民謡、エイサーまで、越冬闘争の主旨に賛同するミュージシャンの方々の演奏が繰り広げられます。31日の夕方にはほのど自慢大会も開催されます。公園広場では卓球大会(1/1)、もちつき(1/2)、ソフトボール大会(1/3)が行なわれます。まつり期間中を通じて釜ヶ崎で活動をしている仲間からの呼びかけやアピール活動も行なわれます。



☆「わしらの声を聞け! センター建替え問題討論会」☆

1月2日(木)11時～14時 ふるさとの家

これからのあいりん総合センターの在り方をみんなで一緒に考えて声を上げていきましょう。

☆お礼まいり☆

1月6日(月)朝7時～ センター集合

行政が仕事始めの6日、大阪市・大阪府に要求書を提出します。三角公園で参加者全員で朝食をすませた後、大型バス(勝利号)で出発します。



かまがさきげいじゅつだいがく 釜ヶ崎芸術大学



がっしょうはっぴょうかい がっしょうぶ 合唱発表会【合唱部】

ひ ねん がつ にち げつ
日にち：2019年12月30日（月）

じかん ごご じ
時間：午後6時30分ごろ

かいじょう さんかくこうえん
会場：三角公園ステージ

しゅうごう ごご じ
集合：ココルーム（午後4時）

しき やまものりゆき かんさいがっしょうだん
指揮：山本則幸（関西合唱団）

こうれい 恒例

しんしゅん たいかい 新春かきぞめ大会

ひ ねん がつ にち もく
日にち：2020年1月2日（木）

にち きん
3日（金）

じかん ごご じ ごご じ ぶん
時間：午後2時～午後3時30分ごろ

かいじょう さんかくこうえん
会場：三角公園ステージはじっこ



ほうじん
NPO法人ココルーム

じゅうしょ にしなりくたいし とびたほんどおりちゅうおうしょうてんがい
住所：西成区太子2-3-3（飛田本通 中央 商店街）

でんわ
電話：06-6636-1612

釜ヶ崎講座第 50 回越冬闘争期間の取り組み

「12・30 越冬闘争連帯行動デー」

12月30日(月) 17時30分 釜日労事務所集合。

当日、夕方から越冬実行委員会が行う「臨泊報告」、布団敷き、人民パトロール(PM8:00~9:45)、医療パトロール(PM9:45~11:30頃)の行動に参加。越冬闘争の中味を学習・体験します。出来れば釜日労・佐々木さんから越冬の歴史・意義のお話を聞く予定です。多くの方の参加を期待しています。

「2020 新春釜ヶ崎街歩きツアー」

1月3日(金) 昼 12時30分 釜日労事務所前出発。

参加費 500円

今年も水野阿修羅さんのガイドで釜ヶ崎の歴史と文化そして今を探して歩いて行きます。約2時間半の街歩きの後、簡単な感想会を持ちたいと思います。

どちらも参加申し込み不要です。気軽に参加して下さい。

(問い合わせ 090-2063-7704 事務局・河村)

無料! 思い出写真・証明写真コーナー

(写真家 石津武史・遠藤智昭企画)

12月30日(月)~1月3日(金)まで、午後3時30分~7時頃まで

記念の一枚となる思い出写真。仲間に見せびらかすのもよし、「俺の遺影に使ってくれー」と誰かに預けるのもよし。仕事等で必要な各種証明写真。必ずどこかで役に立ちます。お気軽にお立ち寄りください。

翌日渡しとなります。

第 50 回釜ヶ崎越冬闘争への協力要請

いよいよ今年も本格的な冬がやってきました。建て替えのためのセンター閉鎖や猛暑、台風など、働く者、野宿を強いられる者にとって厳しい一年でした。

大阪では道頓堀や黒門市場、USJなど外国人旅行者があふれんばかりに詰め掛けており、新今宮駅や新世界も大量の旅行者が行き来し、ホテルや民泊を求めて区内奥深くまでやって来ています。

さらに 20 年の東京オリンピック、25 年の大阪万博を当て込みホテルなどの建設のみならず道路工事に至るまでいたるところで建設ラッシュが始まっています。

こうした観光客の増加は地域経済を活性化させ、大量のドラッグストアが新規開店し、スーパー玉出やドン・キホーテといった旧来の安売り店の商品価格も押し上げて、地域労働者、生活者の家計を圧迫するようになりました。地域の簡易宿泊所(ドヤ)でさえ、土日祝祭日は 200 円割り増しなどというところが出てきています。

この現場の動きは再開発と呼ぼうがジェントリフィケーションと呼ぼうが確実に街の変化と地域の労働者の生活の変化を推し進めています。

センターの建て替え問題は、自らの営利のため事業拠点を創るため跡地を私たちから奪おうとする商業資本から労働施設を守り、安心して働き生活できる地域社会を創ろうとする私たち労働者とのせめぎ合いであり、地域の人たちとの協働の場でもあります。西成特区構想発表から 7 年が経ち、「民営化」の名のもとに、市民の財産、労働者の財産を資本に売り飛ばそうとした悪徳政治家と御用役人、御用学者の目論見を一旦は阻止したものの、新センターの中身についてはまだまだこれからの攻防となります。

私たちは「釜ヶ崎へ行けば何とかなる」という想いに応え続けてきたこの街の良さ(多くの人たちの想い)=伝統を守ることによって、今この街に暮らすなかまと共にこれからも流れ着くであろうなかまたちを守っていければと思います。

今年の越冬闘争も目の前でなかまたちが餓死・凍死するのを防ぐとともにこの街がすべての個人にとってやさしく住みやすい街となるように人権と平和を求めてそれに反するような行政施策、国の政治を見据えながらなかまたちの団結を創り出し、声を上げていく越冬闘争になればと願っています。

これまで同様皆様の温かいご支援をお願いいたします。

また、2019 年 12 月 28 日から 2020 年 1 月 6 日までの越冬期間中の現場でのご支援もよろ

しくお願いいたします。

■資金で協力

越冬闘争では、毎年 70 万～80 万円の資金が必要となります。現在も、越冬実行委員会では、資金集めに奔走しております。厳しさを増すこの経済状況にあつて、心苦しい限りではありますが、釜ヶ崎の運動・取り組みに関心を寄せる多くみなさまに、資金協力をお願いしたく思います。

【振込先】①みずほ銀行 難波支店 普通口座 1387094

釜ヶ崎実行委員会代表山田実

②ゆうちょ銀行 記号 141 番号 33722521

【他金融機関から振り込みの場合】

③ゆうちょ銀行 店番 418 普通預金 3372252

④郵便振替口座 00960-4-108331

②③④は、名義：釜ヶ崎実行委員会

■物資で協力

越冬闘争では、次のような物資が必要です。みなさまのご協力をお願いいたします。

- 毎日の炊き出しに使う、米、もち米、お米券、調味料、野菜、その他の食料
- 寝場所、医療パトロールで使う、布団（敷布団、掛布団）、毛布類、寝袋
- 冬の寒さをしのぐための、衣類（成人男性用で、防寒着、カイロ、など）
- その他、石鹸、タオルなどの日常生活用品

【物資の送付先】〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋 1-9-7

第 50 回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会（代表 山田 実）

電話：06-6632-4273

第 50 回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会

